

ちば里山新聞

(第17号)

編集 発行 ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
電話 0438-62-8895
題字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

「里山に楽しみを見つける3日間」

学生対象の里山活動体験講座開催

(独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金助成事業)



閉講式の後、修了書を片手に

(江戸川大学、千葉大学、千葉県農業大学校、東京農業大学、
東京大学大学院、日本大学、明海大学の参加者の皆様)

8月29日(金)～31日(日)2泊3日で
学生対象の里山体験講座を開催しました。

講座内容は

一日目は飯給駅前鎮守の森での下刈り作業と
自然観察。

二日目は大福山山頂付近でのスギの間伐作業
と梅ヶ瀬溪谷竹の伐採作業。

三日目は梅ヶ瀬溪谷の自然観察会の予定でし
たが雨で急遽宿泊した奥養老溪谷バンガロー村
での自然観察指導員からの講習に変更。

地元のボランティア団体との交流や、林業家
の方の話など、二日間とも作業終了後は養老溪
谷温泉で汗を流し、いろいろな話や体験が出来
た3日間でした。

学生対象の里山活動体験講座全行程

○一日目 **開講式** 天候不順が予想される中、申込者全員キャンセルもなく参加



小湊鉄道飯給駅到着



小湊鉄道飯給駅で開講式



鎮守の森鳥居の前で

○一日目 鎮守の森の下刈り

オオガマの使用方法を教わり、
地元の人と一緒に作業を行った。



作業後の温泉入浴

○二日目 大福山山頂の間伐

本格的な山に入り、森林所有者と
一緒にスギの間伐作業



指差呼称 安全確認ヨシ！



感動した初めてのチェーンソー体験！ 参加者のアンケート結果からも、今回の講座の中で一番評判の良かった間伐体験でした。

○二日目 梅ヶ瀬溪谷竹の伐採

植樹した梅が竹などにおおわれて
負けそうになっていました



地元で活動するボランティア団体との交流

○三日目 自然観察会と閉講式



楽しかった夜の食事



自然観察指導員の説明



修了証の授与



小湊鉄道養老溪谷駅でお別れ

千葉県森林課
伊藤課長の

里山整備保全活動を語る 第2回

里山整備保全活動に対して日頃から感じておられたことを4回ほどシリーズで掲載します。

チェーンソーの魅力

8月末に実施された「里山に楽しみをみつける3日間」～学生対象の里山活動体験講座～に参加しました。ちば里山センターならではのネットワークを生かした多彩で充実したプログラムで、参加者の満足度も非常に高かったようです。

個人的には2つ印象に残ったことがありました。一つは、チェーンソーのもつ魅力です。2日目夜の一人一言では、参加動機は様々でしたが、異口同音にチェーンソーによる伐採作業が印象的だったとの感想でした。

森林の管理には、密度管理などの理論と並んで実際の作業や道具への習熟が重要なことはいまでもありません。現場で使う道具には機能美とでもいう独特の魅力がありますが、チェーンソーなどの刃物類はひとつ間違えれば取り返しつかない怪我につながるだけに、しっかり学ぶことが必要不可欠です。

そうは言っても学生時代には実体験の機会がないのが一般的なので、はじめてさわるチェーンソーに恐る恐るといった感じでしたが、皆、真剣に取り組んでいるのが印象的でした。私は、伐採についてはその技術をしっかり身につけると同時に、数十年を経た樹木の命を、人間の都合で突然中断する行為の重さを彼らなりに感じてくれればとも思いましたが、それぞれに感じるものがあつたようです。もう一つ印象に残ったのは、アメリカの留学生から聞いたボストン郊外の里山の話です。

「1900年前後に中西部から安い農産物が入ってくるようになり、ボストンなど東海岸近郊の小規模農地が放棄された。その後森林状態となりコモンズ（入会地？）として管理されてきたが、近年荒廃が目立ちNPOによる管理などが試みられている。」とのことでした。時代や国の違いがあつても、社会経済状況の変化により、人間と自然のつながりが見える半自然な土地利用が置き去りにされる構図は、同じだなと妙に納得しました。

現在の里山も、薪炭林や谷津田の新たな価値や利用法を模索している状態です。答えが見つかるまで、多くの試行錯誤が必要かもしれませんが、地道な活動を続けていくしかないのでしょう。



タマゴタケ（テングタケ科）

山で作業をしていると色々なキノコに遭遇します。タマゴタケは白い卵のような皮膜を破ってでてくる、初秋によく見かける赤いキノコです。食用とすることができますが、タマゴタケモドキという猛毒菌もありますので、初心者は注意が必要です。

編集後記

「次世代を担う若い人に私たちの思いを知ってもらいたい」と里山活動体験講座の検討に入つたのですが、内容は最低3日必要、遠距離からの参加者を考えると宿泊必要、しかし今まで主催した里山活動体験イベントはすべて現地集合現地解散。宿泊場所は、参加費は（高額だと難しい）。実現するために越えるハードルはたくさんありました。予期せぬ天候で講座内容が一部変更せざる得なくなった等ありましたが事故なく無事終了し、アンケート結果などからみても参加者が満足してくれたことが何よりです。一緒に作業した地元で活動するボランティア団体・裏方として食事準備をしてくれたボランティアスタッフ・小湊鉄道(株)・養老渓谷旅館組合・行政関係者などの協力があつたからだと思います。